

# 寛永文化の 茶人たち

遠州・松花堂・宗和らゆかりの道具と書画



2012年  
11月10日 土 - 12月16日 日

開館／午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで) 会期中無休  
観覧料／一般：700(550)円、大高生：450(300)円、中学生以下無料

( )内は20名以上の団体料金

公益財団法人



香雪美術館

KOSETSU MUSEUM OF ART

共催：朝日新聞社



# 寛永文化の 茶人たち

遠州・松花堂・宗和らゆかりの道具と書画



5



1



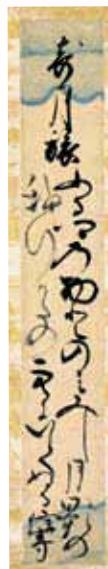
2



4



3



6

寛永文化とは、桃山と元禄に挟まれた寛永年間（二六―四一四丑）を中心とした、およそ八十年間前後の江戸時代初期の文化を指します。

安土桃山時代の利休亡き後、利休の茶を継承する茶匠たちが次々に登場し、さらに大胆な創造性を発揮しました。まず織部が天下の宗匠となり、弟子の小堀遠州が受け継ぎます。遠州は、幕府の作事奉行として多くの建築や造園に関わったことから、宮廷文化にも理解を深め、「綺麗さび」と呼ばれる美意識を生み出しました。

京の都では、町衆勢力と後水尾天皇を中心とする朝廷勢力が、幕藩体制を強化する江戸幕府に対抗する形で文化の興隆を生み出します。公家社会、僧侶、文人、町衆等、あらゆる階層に支持者を持っていた金森宗和のやさしく雅な茶風は「姫宗和」、利休の孫である千宗旦は、清貧の侘びに親しみ「わび宗旦」と称されました。また絵画や陶芸なども彼らの指導により、前代までにない独創的な開花を見せました。

本展では、遠州をはじめ、臨濟宗大徳寺の禅僧江月宗玩、沢庵宗彭、その帰依者でもあった松花堂昭乗や近衛信尋らの由縁の茶道具や書画より、江戸・寛永の時代に育まれた文化人達の風雅な交流をご紹介します。



7



8



9

(表面)左/野々村仁清 色絵忍草絵茶碗、中/祥瑞 洲浜形栗鉢、右/瀬戸大覚寺手茶入 銘「初雁」、背景/小堀遠州 消息 江月宗玩宛  
(裏面)1. 青磁 酒会壺 水指 2. 楽常慶 獅子香炉 3. 楽道入 黒楽茶碗 銘「黄山」 4. 御本立鶴茶碗 5. 重要美術品 松花堂昭乗 山水図  
6. 寛永文化人 寄合短冊帖のうち近衛信尋 7. 利休 龍花入 銘「桂川」 8. 古芦屋 満潮八景図 八角釜 9. 本阿弥光悦 日月四季竹園屏風

## 主な出品

- ・重要美術品 瀬戸 肩衝茶入 銘「堪忍」
- ・沢庵宗彭 横一行「透雲閣」
- ・唐物 肩衝茶入 銘「堅田」
- ・野々村仁清 鱗 香合 ほか
- ・高取 鯉鱗形茶入 銘「腰菱」

## ギャラリートーク

会期中の毎週土曜日、午後2時から学芸員によるギャラリートークを行います。  
※ただし、12月1日(土)をのぞきます。  
※聴講は無料ですが、別途展覧会の鑑賞券が必要です。

## 香雪美術館

〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家 2丁目12-1  
Tel. 078-841-0652  
<http://www.kosetsu-museum.or.jp>

- ・阪急「御影」駅より東南へ徒歩5分
- ・JR「住吉」駅より北西へ徒歩15分
- ・阪神「御影」駅より市バス19系統「阪急御影」下車徒歩5分

## 次回展

特別展「小倉遊亀 慈愛のまなざし」(仮)  
2013年3月9日(土)～5月6日(月・祝)

